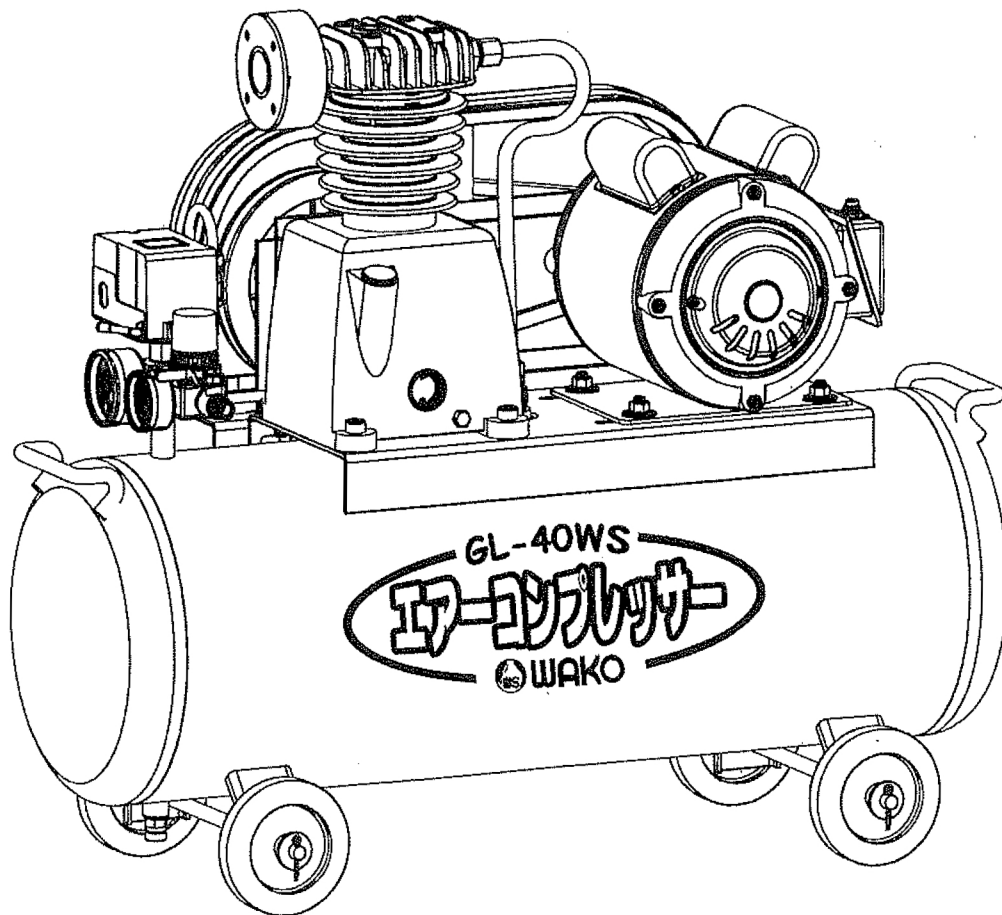


エアーコンプレッサー GL-40WS

取扱説明書

この度は、弊社「エアーコンプレッサー GL-40WS」をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。尚、この取扱説明書は大切に保管して下さい。



● ご使用上の注意事項

- ・商品の運送途上の衝撃等により、商品が破損したり、取付部品が外れたり、曲がったりする場合がありますので、ご使用前に必ず確認して正規の状態でご使用下さいますようお願い致します。
- ・差し込みプラグを電源に差し込む前に、スイッチが切れている事を確認し、使用后および停電の際にはスイッチを切り、差し込みプラグを抜くように心がけて下さい。
- ・整備点検、部品交換の際は、必ずスイッチが切れている事を確認し、差し込みプラグを電源から外してください。
- ・運転中、機械の調子が悪かったり、異常に気付いた時には、直ちに使用を中止して下さい。
- ・ご使用前には、本体各部のネジ類がしっかり締め付けられているか確認して下さい。
- ・製品は大事に扱って下さい。誤って落としたり、ぶついたりした場合は、異常の有無を確認して下さい。

危険

電圧は、銘板の表示と一致しているか確認して下さい。100V用のモーターを200Vで使用しますとモーターが発熱して危険です。逆に低い電圧で使用しますと、力不足となります。

危険

運転中は可動部には手を触れないで下さい。大変に危険です。

- ・能力を超えた作業は事故のもとです。また、著しく耐久性を低下させる原因となりますので、ご注意下さい。
- ・作業の能率や安全のために、使用説明に従って、各部品がしっかりと取り付けられているか確認して下さい。
- ・安全な作業をするためには、作業場所は常にきれいに整理をし、十分な採光が必要です。散らかした作業場所は事故のもとです。

危険

作業場所には作業関係者以外は近付けないで下さい。特にお子様は危険です。

- ・調整用スパナ、レンチ、ドライバー類は使用后すぐに外すようにして下さい。
- ・作業にはマスクを着用して下さい。

危険

揮発性可燃物（シンナー、ガソリン等）の近くでは絶対に使用しないで下さい。

注意

本機にはアース端子が付いております。感電事故防止のため、必ずアース（接地）をしてご使用下さい。また、アース線をガス管に接続しないで下さい。爆発の恐れがあります。尚、本機にはアース線は付属されておられません。

● 用途

- ・ 塗装用として（日曜大工、プラモデル、色、革製品等）。
- ・ 充てん用として（浮き輪、エアーマット、ボール、ビニール玩具、風船、自動車タイヤ等）。
- ・ 農機具、車の保守用として（エンジンクリーナー、エアーツール等各種機械・器具の洗浄、ホコリ払い）。
- ・ 散布用として（水・消毒液等の散布、ワックスの吹き付け等）。

● 特長

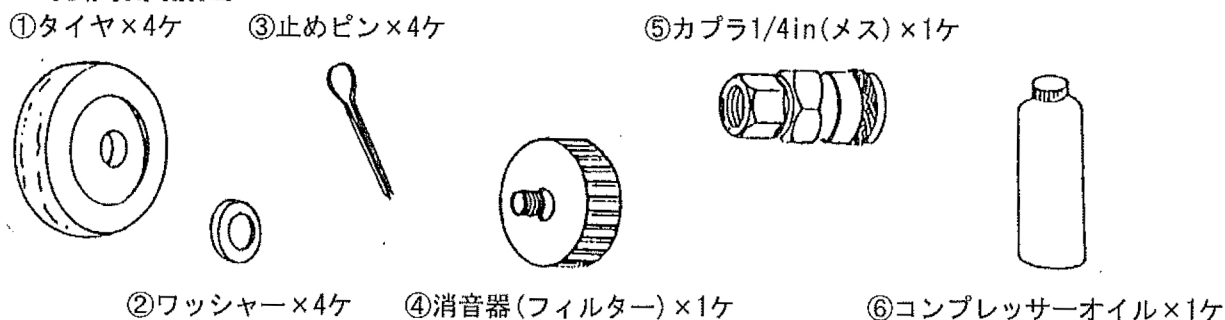
- ・ 故障の少ないベルト式。
- ・ 用途は多種多様。
- ・ 圧力調整器（レギュレーター）付で、能率の良い作業ができます。

● 仕様

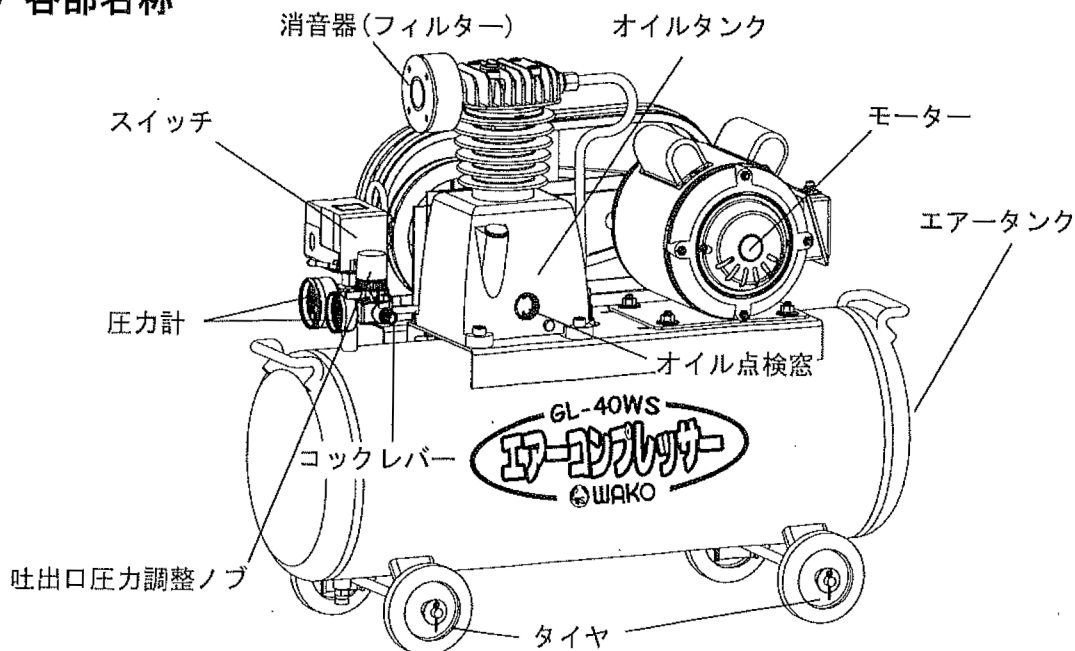
型式	GL-40WS
電圧	100 V 50/60 Hz
平均消費電力	650 W
最大圧力	10 Kg/cm ²
使用圧力	8 Kg/cm ²
吐出量	74/89 ℓ/min
無負荷回転数	1420/1720 R. P. M.
タンク容量	39.5 ℓ

* 改良のため、製品の仕様および外観が変わる場合があります。

● 付属部品図



● 各部名称



● 設置場所

⚠ 注意

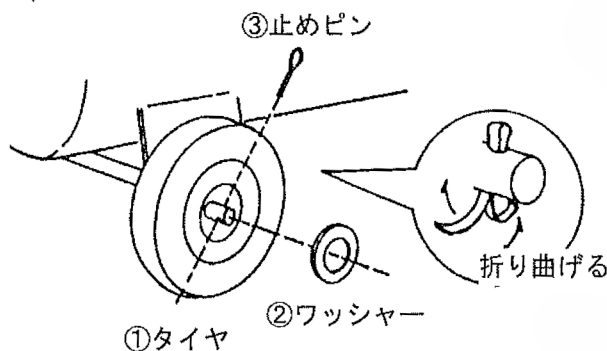
- ・ 本機は、お子様の手の届かない所に保管し、温度の高い所、雨のかかる所、直射日光のあたる所は避け、チリ・ホコリが少なく風通しが良い場所を選んで下さい。
- ・ 点検し易いよう、壁から30 cm以上離して平らな場所を選んで下さい。
- ・ 室温は40度を超えないようにして下さい。
- ・ 屋内（雨水、水滴等のかからない場所）でのみ使用して下さい。
- ・ 清浄な空気が吸入できる場所を選んで下さい。チリ・ホコリの多い所では、フィルターの目詰まりにより空気量の低下やシリンダ、ベアリングを傷つけ、性能が落ちる事があります。

● 配線

- ・ 優良な配線器具を使い、電気設備基準や電力会社の規則に従って、保守に十分注意して下さい。
- ・ 電力はコンセントから直接取る事が望ましいのですが、やむを得ず延長コードを使用する場合は、2mm²（20～30 A）以上のコードをご使用下さい。延長コードが細かったり、長すぎたりしますと、電圧降下により起動しない場合がありますのでご注意下さい。（延長コードは10m以下でご使用下さい）

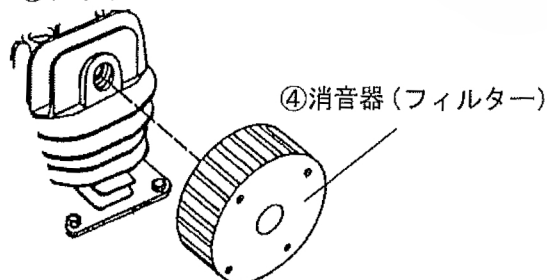
● タイヤの取付

付属の①タイヤ（4ケ）、②ワッシャー（4ケ）、及び③止めピン（4ケ）をそれぞれ図のように本体のタイヤ取付箇所に取り付けます。③止めピンを差し込みましたら止めピンの先端を図のように外側に曲げてしっかりと固定するように取り付けて下さい。



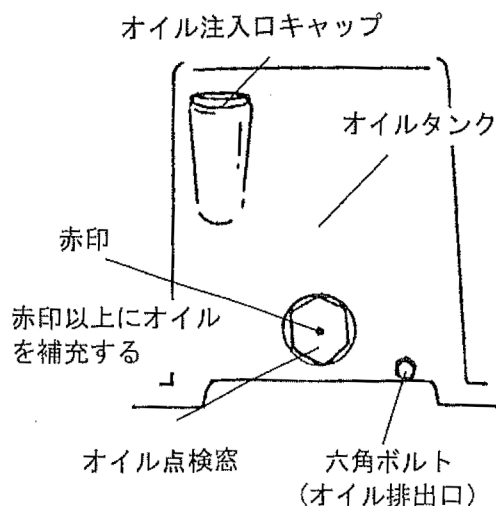
● 消音器（フィルター）の取付

付属の④消音器（フィルター）を取り付けます。



● 給油

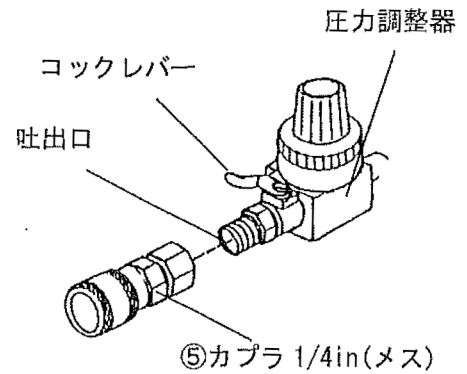
- ・ ⑥コンプレッサーオイルを給油して下さい。
 - ・ オイルの残量は、六角形のオイル点検窓から見えるようになっていきます。中心の赤印よりも少なくなったら、市販のコンプレッサーオイルを補給して下さい。
 - ・ またタンク一杯に入れすぎてもオイル漏れの原因となりますのでご注意下さい。
 - ・ オイル交換をする場合は、タンク下部の六角ボルトを外して排出してください。
- * オイル交換時期は、初回は100時間を目安とし、次回からは500～1000時間を目安として交換して下さい。



● 運転

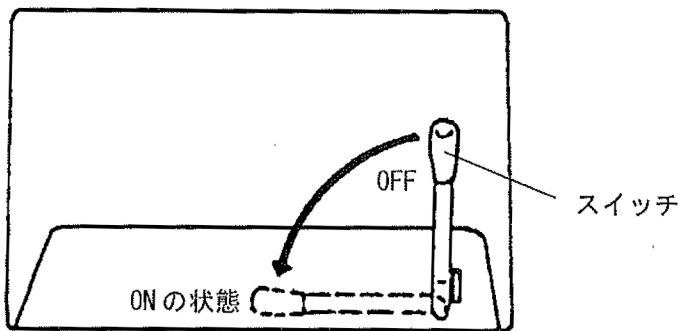
1) 吐出口

- ・吐出口に付属の⑤カプラ1/4in(メス)をしっかりと取り付け、続いて使用するホース、工具類を取り付けて下さい。この時、安全のため、吐出口のコックレバーは閉じた状態(吐出口に対して直角位置)にしておきます。
- ・吐出口に市販のシーリングテープを巻くと、空気漏れが防げます。

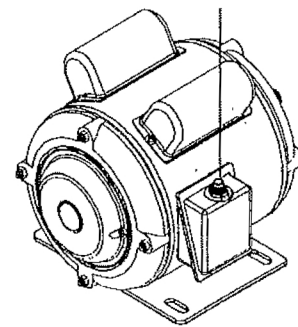


2) スイッチ

- ・スイッチレバーは、垂直の位置がOFF(切る)で、水平に倒しますとON(入る)になります。
- ・またモーター横にブレーカーリセットボタンがあります。本機的能力を超えた作業によるモーターの焼損を避けるため、ブレーカーが働きます。ブレーカーが作動したら、即座にスイッチをOFFにして下さい。
- ・1分くらいの停止を行い、その後でブレーカーリセットボタンを押して下さい。
- ・そしてスイッチをONにして再起動して下さい。



ブレーカーリセットボタン



3) 安全装置

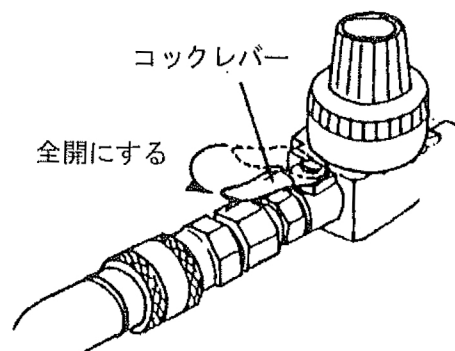
- ・本機の使用圧力は8 kg/cm²となっております。起動し始めてから圧力が8~8.5 kg/cm²になりますと、自動的に圧カスイッチが作動してOFFの状態になり、圧力が6~6.5 kg/cm²まで下がりますと再び起動し始めます。

⚠ 注意

圧力8 kg/cm²で圧カスイッチが働かずに圧力が上がっても、10 kg/cm²で安全弁が作動し圧力を下げる構造になっております。

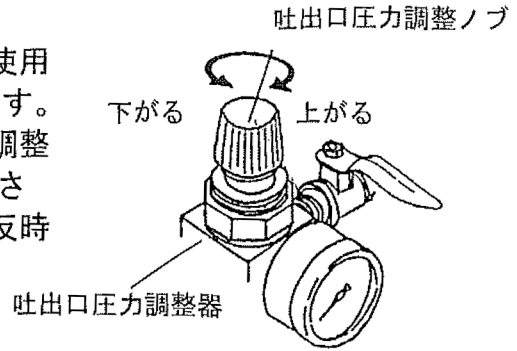
4) 始動

- ・プラグを電源に差し込む前に、必ずスイッチがOFFになっている事を確認して下さい。
- ・プラグを電源に差し込み、スイッチを入れます。圧力がタンク内に一杯になり、圧力8 kg/cm²で圧カスイッチが作動します。この間スイッチを途中で止めたりしないで下さい。
- ・吐出口のコックレバーを吐出口に対して水平位置に廻して全開にします。



5) 吐出口圧力調整

- ・ 本機吐出口には、圧力調整器が付いています。使用圧力8 kg/cm²以下の圧力を無段階で設定できます。
- ・ 使用圧力8 kg/cm²まで上げておいてから、圧力調整ノブを廻して必要とする圧力数値に設定して下さい。ノブは、時計方向に廻すと圧力は上がり、反時計方向に廻すと圧力は下がります。



6) 設定圧力調整方法

(安全弁開放圧力調整)

本機は出荷時設定圧力を8 kg/cm²にしてあります。

下記の手順で最高10 kg/cm²まで設定が可能です。

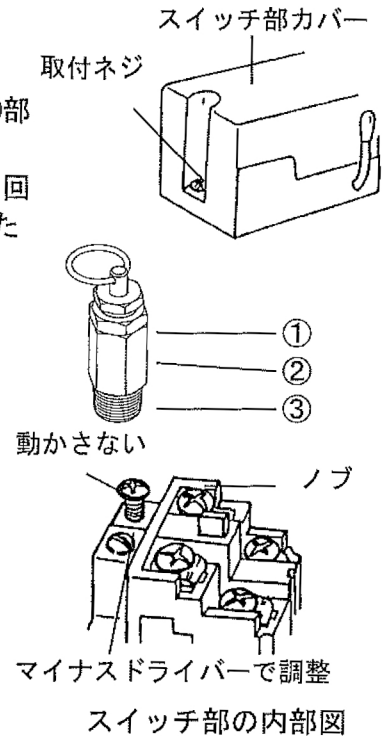
- ・ まず、安全弁の開放圧力を設定します。②ナットをゆるめ、③部分を時計方向に廻すと、開放圧力が高くなります。
(反時計方向に廻すと開放圧力は低くなります) 目安として1回転させると、約0.25 kg/cm²上がります。開放圧力は、設定したい圧力+1.5~2 kg/cm²に調整します。

(開放圧力確認)

- ・ 次に、開放圧力数値の確認をします。スイッチ部カバーの取り付けネジをドライバーで外し、スイッチ部カバーを取り外します。
- ・ スイッチ部中央のノブを押すとモーターが作動しますので、安全弁が作動するまでノブを押し続けます。安全弁が作動した時点のゲージ上の数値が設定されている圧力です。

(設定圧力調整)

- ・ 設定圧力を高くする場合、図の⊖ネジを時計方向に廻して下さい。1回転で約0.25 kg/cm²上がります。
- ・ 圧力を下げる場合は、同じく⊖ネジを反時計方向に廻して下さい。



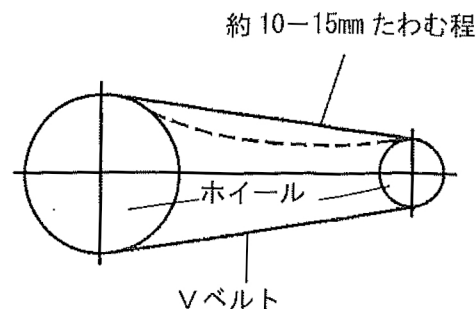
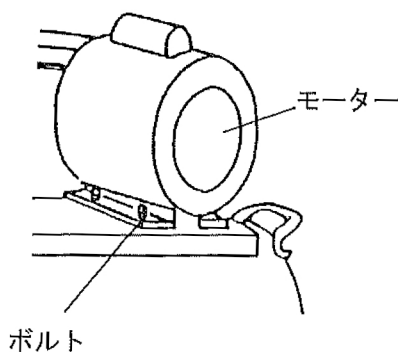
⚠ 注意

⊕は動かさないで下さい。

上記作業はタンク内圧力計（正面向かって左側の圧力計）をもとに行ってください。

● 保守と点検

- ・ 消音器(フィルター)は、定期的に交換をして下さい。年に一回を目安としますが、汚れがひどい場合は、本機機能を低下させないためにも交換してください。
- * 消音器(フィルター)はオプション(別売)として当社に用意してあります。本機お求めの販売店にお問い合わせ下さい。
- ・ 新しいVベルトに交換した際は、必ずVベルトの張り調整を行ってください。図のようにモーターが取り付けられている基部の下側のボルト(計4箇所)を緩めて、位置調整を行ってください。

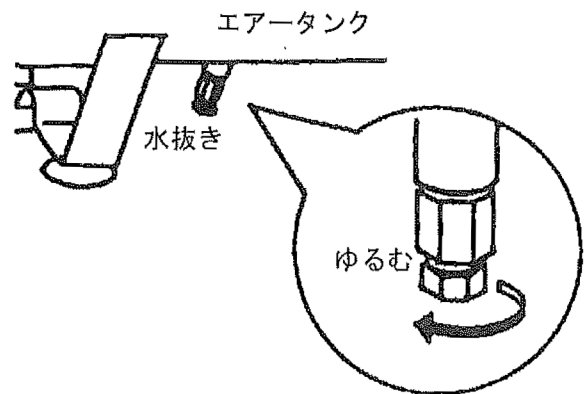


- ・ ベルトの張り具合は、指で押してみても約10-15mmたわむ程度を目安として下さい。
- ・ Vベルトが消耗した際は、市販のVベルト（A41）をご使用下さい。
- ・ ご使用後は、プラグを電源から抜いてから必ず水抜き作業を行って下さい。

⚠ 注意

エアーを圧縮すると必ず水が発生します。サビ防止のため、使用後はタンク内の水抜きを行って下さい。

- ・ 作業終了後は、ご使用になったエアー工具類の必要箇所にオイルを注入して下さい。



● その他

- ・ 市販品の水抜き・オイル・圧力弁がセットになったエアーコントロールセットを本機に装着してご使用いただければ、一層効率の良い作業が行えます。

● トラブルの原因と対策

故障の種類	原因	対策
圧縮機が回転しない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源からの入力なし ・ モーターの故障 ・ スイッチの故障 ・ 圧力スイッチの故障 ・ 電圧降下 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラグ・コードの点検 ・ モーターの交換 ・ スイッチの交換 ・ 圧力スイッチの交換 ・ 電力会社と相談
圧力が上昇しない・ 上昇が遅い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧力計の故障 ・ 回転数の低下 ・ 空気漏れ ・ 弁の作動不良 ・ 消音器(フィルター)の汚れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧力計の交換 ・ 入力電圧の確認 ・ 漏れ箇所の修理 ・ 弁の調整または修理 ・ フィルターの交換
異常音・振動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置不良 ・ 締め付け部のゆるみ ・ 本体各部の摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置(場所)の変更 ・ 増し締めをする ・ 消耗部品の交換

● 検査記録表

検査項目	検査日付	年	年	年	年	年	年
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
本体損傷の有無							
安全弁							
水抜き							
フィルターの汚れ							
コンプレッサーオイル量							
オイル交換日							
異常音・振動・その他							
検査担当者							